



パイズリ捜査官VSパイズリレイパー2



前回、女性の乳を犯す凶悪な性犯罪者『パイズリレイパー』を逮捕した  
性犯罪専門捜査官『陣内麗子』

しかし二年後。パイズリレイパーは刑務所から脱獄……

麗子は新人捜査官見習い通称『後輩』と共に、パイズリレイパーを追う

だが……

そうだ♡ゆっくり手を後ろに回せ♡  
変な気を起こすなよ？

犯人「久しぶりだなあ♥女捜査官さん♥」

麗子「……」

おんおん

性犯罪専門特別捜査官

陣内麗子(27)

脱走犯  
連続パイズリ強姦魔  
通称『パイズリレイパー』

犯人「しかしアンタも焼きが回ったなあ♡

以前のアンタは孤高故に隙がなく手強かったが

こんなお荷物抱えちまうとはなあ♡

役立たずの後輩をもって大変だね女捜査官さん♡」

麗子「……」

犯人「俺が要求する事はわかってるよな？

なんでわざわざ俺が脱獄したのか……

理解してるはずだ……賢いアンタなら♡」

麗子「……好きになさい」

性犯罪専門特別捜査官見習い  
麗子の後輩

犯人「ハアハア♡やっぱアンタは利口だな♡ふへっ♡」

麗子「そのかわり後輩には手を出さないで」

おんおん

犯人「心配するな♡アンタが俺をしつかり楽しませてくれさえすれば  
あんな男に用はない♡ハアハア♡」



犯人「うほおおおおっ♡」

犯人「きたきたきたっ♡」

ぷんぷん

ぷんぷん



犯人「凄いっ♥凄いつつ♥でか以前の倍くらいデカくなってねえかつ!!

更にドスケベになりやがってっ♥このメスっ♥

よりパイズリに特化した大きさになってやがる♥ハアハア♥

パイズリしすぎて、パイズリ向けに進化したのか?!

まるで環境に適應する為進化し続ける生物の神秘のようだッ♥」

麗子「下らない」と言っていないで早く済ましたらどうかしら……?」

犯人「悪い悪い♥二年ぶりに女の……しかもこんな極上のデカ乳を見たんだ♥

つい興奮しすぎちゃってよお♥ハアハア♥」

後輩「ん……んん……」

「こゝは……どうだ……？」

そうだ……！僕は先輩に良いところを見せたくて  
刑務所から脱走したパイプスリレイパーの  
アジトらしき倉庫に単独で忍び込んで  
それで……」

後輩「そう。。。奴を発見したはいいけど

返り討ちにあっってしまったで。。。

くそ！情けないっ！！

尊敬する麗子先輩に早く一人前だと認めてもらいたくで  
勝手に動いたあげくボロボロにされちまうなんて。。。

く。。。なんだ。。。動けない。。。！

カラダを縛られたのか。。。！

ん。。。？なんだ。。。？「の音は。。。？」





犯人「これこれえ♥これだよっ♥  
やっぱアンタの乳は絶品だぜ♥  
これが忘れられなくて獄中でもアンタの事を想いながら  
独り寂しくシコってたんだぜ〜♥罪作りの魔乳だぜ♥」

麗子「あらそう…私は貴方の粗末なモノの事なんて  
すっかり忘れていたけどね」

犯人「ふひっ♥その気の強さも愛おしいぜ〜♥」

後輩「な…っ！な…っ!!!」





後輩「なにやってんだ  
キサマアアアアアツ!!!!」

犯人「おっ♥後輩くん起きたかあ♥  
君が呑気に寝てる間に先輩のデカ乳ゴチになってまーす♥」

後輩「ふざけるなああああつ!!!!  
先輩から離れるキサマアアアアアツ!!!!」

麗子「感情的になるのはやめなさい  
この程度私は平気よ・・・」

犯人「いやあ君の先輩のパイズリめっちゃ気持ちいいぞ♥  
なんなら後輩君にも使わせてやろーか？  
俺が終わったあとでなあ♥  
おっ♥イキそ・・・っ♥」

後輩「うあああああっ!!!!  
やめるおおおおっ!!!!」



犯人「おおふっ♥ぎもちいい〜♥  
あ、ごめん♥顔にかかっちゃった♥」

後輩「殺してやるっ!!  
殺してやるっうっうっ!!!!」

犯人「あ、ちょっと射精に集中させて♥  
生意気な女を精液便所にしでやったっていう  
勝ち誇った良い気分になりたいからさ♥」



犯人「は〜ッ♥気持ちよかつた〜♥  
てか後輩君、腐っても警察官でしょ？  
殺してやるなんて言っちゃ駄目よダメダメ♥」

後輩「クズ野郎おおおおっ!!」

許さないっ!!絶対に許さないっ!!」

犯人「あ、そうか♥さっきのがレイプに見えたんだ？

悪かった悪かった♥だったら今度は君の大好きな先輩に  
自分から〜奉仕してもらおうかな〜♥

先輩自らの意思でやるなら問題ないっしょ？(笑)」

後輩「なに言ってるんだ貴様!!」

犯人「ほら先輩♥今度は自分で俺のチンポを扱けよ♥

あのパイズリテクニクが健在か試してやるぜ♥

はあはあ♥二年前のあの夜を思い出してまた勃起してきたぞお♥」

麗子「…」

後輩「このクズがつ!!先輩が抵抗できないのをいい事につ!!」

僕がこのレイプ魔に銃さえ奪われてなきや…っ!!くそおおおっ!!」

犯人「ハアハア♥すげえ♥ハアハア♥最高だツ♥  
パイズリテクニクは健在…いやパワーアップしてやがる♥  
俺と別れてから一体何人のチンポを扱ってきたんだあ?おい?」

麗子「くだらない質問ね…」

後輩「くそお!くそお!先輩になんてことを…っ!」

なんてことさせるんだあ!!許さない!!許さないぞ!!」

犯人「おいおい嫉妬かあ?君も頼んでみたら?ヤラしてくれるかもよ?ぎやはははっ♥」



麗子「いたずらに私の後輩を刺激するのはやめてもらえるかしら……」

犯人「ふひひっ♥だってよ〜♥「いつ口ではあんな」と言っで

チンポギンギンにおっ勃ててんだぜえ(笑)」

後輩「ちっ、違う!!これはただの生理現象だっ!!

尊敬する先輩を性的な目で見るわけが……っ!!」

麗子「いちいち挑発にのらないっ!!

少し黙っていなさい!!」

後輩「せ、先輩……!!」

犯人「ぎやははは!叱られてやんの!!笑えるぜ!

レイプ魔を糾弾して怒られるとか可哀想な後輩君♥」



麗子「無駄口をたたいてないで股間に集中したらどうかしら……  
またすぐに自分で自分を慰める毎日に戻るのだから」

犯人「また刑務所送りにしてやるってかあ？」

麗子「ええ。今のうちに女の肌の温もりでも堪能しておくことね」

犯人「どこまでも気の強い女だあ♥ふひっ♥

やっぱリアンタは最高の女だぜっ♥ハアハア♥

一生俺のパイズリオナホとして飼ってやるからな♥」

後輩「クソ野郎があ……っ!!」

おちゅ♡  
おちゅ♡  
おちゅ♡  
おちゅ♡  
おちゅ♡  
おちゅ♡  
おちゅ♡  
おちゅ♡  
おちゅ♡  
おちゅ♡

麗子「くだらないお喋りはこれまでよ」

犯人「おおっ!?」

すぢぢぢ

すぢぢぢ

すぢぢぢ



犯人「おっ♡あふっ♡きゅ、急にッ♡  
今までは本気じゃなかったのから!!おおふっ♡」

麗子「……ふん」



犯人「ハアハア♥とんでもねえ女だあ♥  
「こんなんすぐに打ちまうっ…っ♥ふっ♥ふっ♥」

後輩「までっ!!また先輩のカラダに汚物をぶちまける気かつ!!」

犯人「ああ当然だツ♥このままぶちまけてやるっ♥

俺のザーメンで綺麗な女を汚す快感っ♥

この世で一番の幸せだあっ♥ハアハア♥」

麗子「出すならお好きにどうぞ…」

貴方の役立たずな精液、無駄撃ちなさい」

おちゅゅっ♥  
おちゅゅっ♥

おちゅゅっ♥  
おちゅゅっ♥

おちゅゅっ♥  
おちゅゅっ♥



犯人「くおっ♡」

後輩「くそおおおっ!!」

クッ!

クッ!

クッ!



犯人「ふほっ♡フハハハハハハハ♡見ろよ後輩君♡  
大好きな先輩の卑猥なデカ乳が汚いザーメンで見るも無残な姿だぜ♡」

後輩「あ……ああ……あ……」

麗子「……」

ぽろぽろ



卑劣な男の精液で汚された先輩の姿を見て僕は……

まるで精通直後の思春期の少年のように  
激しく性的興奮していた……

ロオオ

犯人「わかってるぜえ後輩君♥

お前……この女とヤリたいんだろお？  
ヤラせてやるよ♥いまこの場で♥」

後輩「なっ?!」

犯人「オラッ♥服脱げ後輩君♥裸になるんだよっ♥」

後輩「ふざけるなっ!!そんな事が出来るかっ!!」

犯人「おいおい立場がわかってないのかよ？

間抜けな君から奪ったこの銃で

先輩を痛い目にあわせてやってもいいんだぜえ?」

後輩「げっ、外道がっ!!」

後輩「これで満足かつ!!」

犯人「くははっ♥やっぱ勃起してんじやねーかつ!!」

やりたくてやりたくて仕方なかったんだろっ!?」

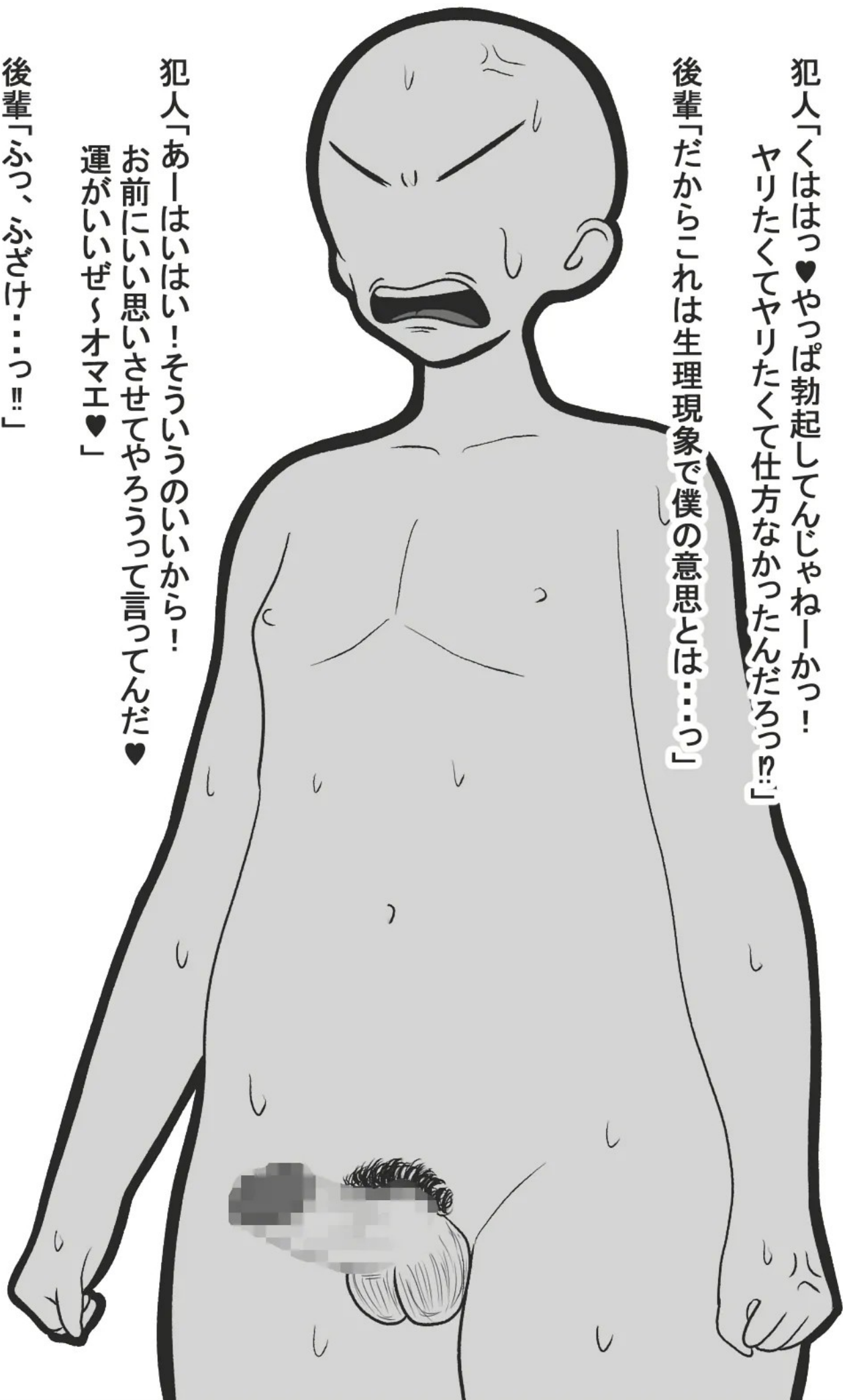
後輩「だからこれは生理現象で僕の意味とは…っ」

犯人「あーはいはい!そういうのいいから!!」

お前にいい思いさせてやるうって言ってるんだ♥

運がいいぜ〜オマエ♥」

後輩「ふっ、ふざけ…っ!!」



犯人「見ろよこの女のドスケベな乳を…♥

こんなもん生で見せられて発情しないオスはいねえ♥  
警察官だって人間だ♥恥じることはねえさ♥」

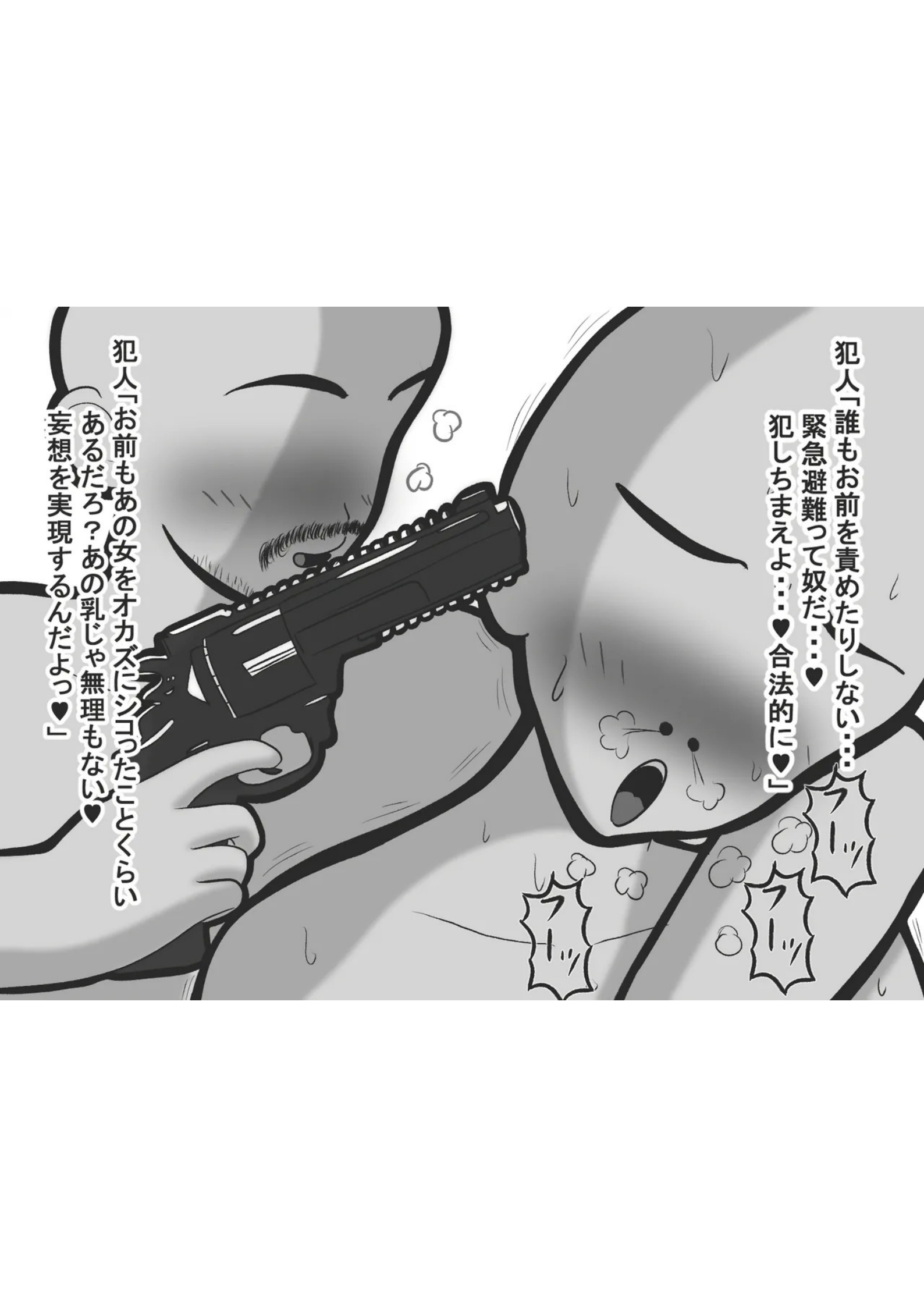
麗子「……」

犯人「お前は俺に銃を突きつけられ脅されて嫌々この女を犯した…

三人の命の為にな…仕方なくだ…お前が望んだことじゃねえ  
そういうおあつらえ向きの建前を用意してやったんだぜえ♥」

後輩「はあはあ！はあはあ！はあはあ！（「くりっ」）」

はあはあ



犯人「誰もお前を責めたりしない……  
緊急避難って奴だ……♡  
犯しまえよ……♡合法的に♡」

犯人「お前もあの女をオカズにシコつたことくらい  
あるだろ？あの乳じゃ無理もない♡  
妄想を実現するんだよっ♡」

後輩「先輩……っ！俺……っ！俺……っ！！」

麗子「いいわ……やりなさい」

後輩「先輩っ!？」

麗子「拒否すればお互い助からない……」

いまは言う通りにするしかないでしょう

大丈夫……私はこついうのには慣れてるから」

後輩「ふっ♡ふっ♡そうだったこれは生き残るためっ♡」

先輩のためなんだっ♡やるしかないんだっ♡

決して性欲に負けたわけじゃないっ♡ふっ♡ふっ♡」

麗子「その前に奴の汚物を拭いてもらえろ……？」

後輩「はっ、はひっ♡」



後輩「い、いまから……この乳を……ハアハア♡」

「この乳で……っ♡ハアハア♡僕はッ♡ハアハア♡」

後輩「失礼します先輩っ!!」

ク  
ラ  
イ

犯人「ギャーはっはっ！」

ホントにやりやがったっ！  
ほらほら腰を振れよ後輩君！」

後輩「ああっ♥先輩の爆乳にチンコが  
飲み込まれてっ♥気持ちっ♥  
ごめんなさい先輩っ♥」

麗子「……いいわ……振りなさい」

後輩「ひゃっひゃっひゃっ♥」





後輩「ああっ♥あああっ♥きつ、気持ち良すぎるっ♥

これが先輩のオツパイッ♥圧倒的肉厚っ♥」

犯人「わかるぜ後輩君♥その女の爆乳は最高だよなあ♥」

麗子「……」

後輩「ハアハア♥しゅっっ♥ハアハア♥しゅっっ♥」

大為 大為 大為

犯人「あくあく(笑)見ろよ女刑事さん(笑)  
後輩くん一瞬で骨抜きにされてるぜ  
凄いよなあアンタのオツパイ♡」

後輩「ふーっ♡ふーっ♡ふーっ♡ふーっ♡」

犯人「ぎやはは♡無我夢中で腰振ってるぜっ(笑)

正義の警察官が快樂に負けてやがる♡  
みっともないアへ顔晒してよ(笑)」

麗子「……」

大為  
大為  
大為

ふーっ♡

ふーっ♡

ふーっ♡

後輩「せっ、先輩っ♡僕もう♡っ♡」

だっ、駄目だっ♡それだけはっ♡

先輩の胸の中に射精するなんてっ♡

後輩として、いち警察官としてそんな♡っ♡

犯人「しっかり気持ち良くなってるくせに

綺麗事ぬかしてんじゃねえよっ！

その馬鹿デカイ精液便所乳マ○コの中に

たっぷりザーメンコキ棄てるんだよっ！

殺されてえのかっ?!ああっ?!」

麗子「構わないわ♡出しなさい」

後輩「でもっ♡」

麗子「こんなところで死ぬわけにはいかない。奴を捕まえるんでしょ？チャンスを待つよ」

後輩「せっ、先輩っ♡ムムムム♡わかりましたっ♡失礼しますっ先輩っ♡」

後輩

後輩

後輩

後輩

後輩

ふっ♡

ふっ♡

ふっ♡

後輩「ふぎいっ♡♡♡♡♡」

犯人「うへえっ♡出しやがったッ♡

ぎやははははっ♡マジかよッ♡

よかつたなあ後輩君ッ♡

極上の乳に乳内射精だっ♡

中々経験できないぜえっ?!

君は幸せ者だっ♡」

後輩「ごめんなしやいっ♡ごめんなしやい先輩っ♡

僕なんかの汚い精子で先輩を汚してしまいましたあっ♡

おおひゃっ♡ムアムア♡あひっ♡きもぢっ♡」

麗子「oo」

後輩「こんなっ♡ハアハア♡先輩をレイプしてるみたいなた体勢ツ♡  
先輩をオナホ扱いしているような体勢ツ♡ハアハア♡」

後輩「なんて命令をするんだっ♡  
悪魔めっ♡ハアハア♡」



犯人「とか言ってホントは興奮してるんだろお？(笑)  
クールで気の強い自分より身分が上の女を  
犯してるみたいでよお♡なあ？後輩君♡」

おちゅゅ♡  
おちゅゅ♡

おちゅゅ♡  
おちゅゅ♡

おちゅゅ♡  
おちゅゅ♡

後輩「ふっ、ふざけるなっ!!悪党めっ!!  
貴様のような歪んだ性犯罪者と一緒にするなっ!!」

犯人「良い子ちゃんぶってないで本音を言えよ♡」

どうせ日頃この女に扱き使われて  
ストレス溜まってたんじゃねえか!?

本心じゃ鬱憤をはらせてご満悦なんだからお!?

おちゅ♡  
おちゅ♡

おちゅ♡  
おちゅ♡

おちゅ♡  
おちゅ♡

後輩「黙れっ!!僕は麗子先輩を刑事として心の底から尊敬しているんだっ!!  
こんなことしたくないっ!!したくないんだっ!!ううっっ!!」

麗子「いちいち相手にしない!冷静になりなさい」

後輩「せ、先輩……僕は本当に邪な気持ちなんてこれっぽっちも……!!」

犯人「つまんねーなっ!!おい後輩っ!!」

腰を振りながらその女の悪口を言えっ!!  
勿論すべて本音でなあ!さもないと今すぐ二人とも殺すっ!!」

後輩「ふっ、ふざけるのも大概にしるっ!!」

思ってもいない悪口をどう言えというんだっ!!」

麗子「このままじゃ二人とも殺されるわ……」

デマ、ガセでいいから私の悪口を言いなさい……」

おすぢゃん  
おすぢゃん

後輩「そっ、そんなあ……っ!!先輩……っ!!」

おすぢゃん

犯人「おらどうしたっ!?殺しちやうぞおっ!?」

おすぢゃん

麗子「早く……!」

後輩「……っ!!ごめんなさい……っ!!先輩……っ!!」

後輩「このデカ乳女がっ♥無駄に馬鹿デカイ乳ぶら下げやがってっ!!

この乳のせいで男性刑事みんな仕事に集中できないんだよっ!  
知ってるか?!みんなこの乳をオカズにシッコってんだぜっ?!

特に三日三晩の張り込み中とかにお前が来ると勃起が治まらなくてヤバいんだっ!!  
ムラムラの限界で何度犯してやるうかと思っただことかっ!!」

後輩「証人やら情報屋やら容疑者には平気でパイズリしまくってるくせに

僕たち警察官の仲間には指二本触れさせないとかふざけてんのかっ?!

お前のせいでムラムラしてんだから少しは抜いてくれたって罰は当たらないだろ!

聞いてんのかデカ乳! ああんっ?!

チュッ  
チュッ  
チュッ  
チュッ

後輩「大体こんな乳ぶら下げてなにが性犯罪専門の捜査官だ！ええっ?!」  
お前の存在が公然わいせつ罪だろうがっ!!  
今まで捜査の名目で何本のチンポをこのバカ乳で扱いて来たんだあ?! ああっ?!」

後輩「ただのビッチじゃねえか! パイズリビッチ!  
チンポ大好きなんだから?! 淫乱女っ!!  
だったら毎日僕の性処理道具になってくれないだろ! なあ!  
僕が童貞だからって見下してんじゃねえぞコラ!!」

チンポ  
チンポ  
チンポ  
チンポ

後輩「毎日毎日、叱りつけやがってっ！女のくせによお!!

飴と鞭つて言葉知らないのか?!

叱った後は二発ヤラせる! 厳しいだけじゃ今時の若者についてはいかねえぞ?!

飴もちゃんとやる! それが良い先輩つてもんだらうが!」

後輩「そもそも僕が捜査中にやらかすのも

このデカ乳に誘惑されて集中できないのが原因なんだから

お前が僕の性処理するのは当然の責任だっ!

そこんとこわかってんのか? おおっ?!

チコッ

チコッ

チコッ

チコッ

後輩「うはははははっ♡精液便所にザーメンコキ棄てるの気持ちいいいいいい♡

すました顔に臭いザーメンかけてドロドロにしてやったぜ♡

美人が台無しですわね先輩♡平然としてるけどホントは悔しいんじゃないですかあ!!

日頃扱き使ってる軟弱な後輩の臭いが取れなさそうな臭いザーメンで顔汚されて化粧も台無しにされてホントは泣きたいほど屈辱なんですよっ!!」

ゴッホッ

オッホッ

後輩「安心してくださいっ♡

お似合いですよザーメン乳液っ♡乳だけにねっ♡

あいま僕、うまいこと言いましたら?アハハハっ♡

思い知ったかコラ!!!これに懲りたらパイズリオナホとして

頑張ってる僕の労を毎日ねぎらえよ!!!いいなオイっ!!!」

後輩「はっ!!!ぼっ、僕はなんてことを……っ!!

興奮しすぎて我を忘れてしまった……っ!!

うああああああっ!!!先輩っ!!!「めんなさっ!!!

先輩が精液まみれに……っ!!!」

犯人「ぎやははははははっ!!!

最高だよ後輩君っ♡

期待以上だった♡

笑い過ぎて腹が痛えっ♡」

どわっ

どわっ



後輩「先輩っ!! ずいませええんんっ!!」

麗子「……」

犯人「さあ! ボサっとしてんなよっ!!」

次は女刑事さんっ!!

アンタが後輩君に奉仕してやる番だぜっ!!」

後輩「なっ?! まだ先輩を辱める気なのかっ?!」

この鬼畜がっ!! 貴様の血は何色だあああっ!!」

犯人「いやお前が言うな」

スー……

後輩「あっ♥あっ♥ああっ♥あっ♥ああっ♥

先輩っ♥凄いつ♥これが先輩のパイズリテク♥」

後輩「これが数多の男の口を割らせてきた

極上のテクニクなのかあっ♥  
気持ち良すぎるっっっっっっっ♥」





後輩「せん……っはっっっ♡」



後輩「ハアハア♥はひ…っ♥す、すこす…ぎ…♥(がくっ)」

犯人「おうおう(笑)幸せそうなアホ面晒して…(笑)

よっぽど気持ちよかったんだろっうなあ♥

これが銃突きつけられてる人間の顔かあ?(笑)」

犯人「女捜査官さんよお♥やっぱリアンタも大したタマだなあ

こんな状況でも平然としてやがる。冷や汗一つかいてねえ」

麗子「こんなことをしても無駄だってようやく気づいたのかしら…??

わかったら大人しくまたお縄につくことね」

やっほ

先輩っ ♡

気持ち良いっ ♡

あっ ♡

あっ ♡

先輩っ ♡

はあっ ♡

はあっ ♡

はあっ ♡

はあっ ♡

はあっ ♡

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

後輩「ハアハア♥ごめんなさい♥ごめんなさい先輩っ♥  
先輩にこんなことをっ♥させてしまうなんてっ♥  
僕はっ♥僕はっ♥」

麗子「本当に謝ってばかりね貴方は……

さっき言った事をもう忘れたの？」

犯人「そうだぞお後輩君♥

この俺に感謝しろよお♥

憧れの先輩のパイズリを味わえるのは  
俺のおかげなんだからなあ♥」

麗子「無視しなさい。生き残るためよ」

後輩「不甲斐ない♥ハアハア♥  
不甲斐ないです♥」



奴の言うことは凶星だった……

こんなことでもなければ先輩にパイズリしてもらえる機会などありはしなかっただろうと。役得だと思っってしまった自分がいた……

警察官として失格……いや男として人として最低だ……っ!!

先輩は体を張って僕の命を守ろうとしてくれているのに!!  
酷い奴だ僕はっ!!



犯人「おいおい涙流してるぞ後輩君(笑)

泣くほど嬉しかったのかあ!!

こいつは傑作だ!ぎやはははっ!!」

麗子「警察官ともあろうものが

これしきのことでなに泣いてるの!

しっかりしなさい!」

後輩「うう…自分が情けなくて…っ情けなくて…っ

それなのにメチャクチャ気持ち良くてっ♡

僕は…っ♡僕は…っ♡」

麗子「余計な事を考えないで奴の隙を伺う事に集中しなさい

必ずこの状況を打破するタイミングが訪れるわ

ただ言いなりになっているだけじゃ駄目なのよ」

後輩「せ、先輩…っ♡凄…っ♡

やっぱり先輩は凄…っ♡」

犯人「なにボソボソ喋ってんだ?!

互い責任でもなすりつけあってんのかあ?!

ぎやはははっ!みっともねえ!」

ズンズン

ズンズン

後輩「先輩っ♡イクイク♡またイクますっ♡」

麗子「いいわ…遠慮なくイキなさい…!」

後輩「失礼しますっ♡

イグウツ♡」



ぎっ、ぎもぢいっっ♡

不謹慎だけどやっぱぎもぢいっっ♡  
一生ついていきます麗子先輩っっ♡



麗子「下らないわね……」

麗子「こんな事で私に精神的ダメージを与えられるとでも  
思っていたのかしら……?」

めろめろ

めろめろ

めろめろ



麗子「この世界に身を投じた瞬間から貞操観念や羞恥心なんて捨てているのよ」

先非車っ♡  
先非車っ♡  
先非車っ♡  
先非車っ♡

めっめっ  
めっめっ  
めっめっ

麗子「犯罪者を捕まえるためなら  
女の武器を惜しみなく使ってきた私に  
こんな手は通用しないの」

麗子「下衆な目論見が外れて残念だったわね」

先非車っ♡

セパっ♡

あっ♡

あっ♡

麗子「私をそこの小娘と一緒にだと思わないことね」

ヒューー

ヒューー  
ヒューー  
ヒューー



犯人「うるせえっ！交代だっ！

また俺を気持ちよくしてもらおうかつ！！」

後輩「や、やめ……っ♡」

犯人「ああんっ！快感で腰を抜かしてる腑抜け野郎は  
いつまでもそうやって横たわってるっ！！」

麗子「……」

おほっ♡  
ふん♡

後輩「うう…っ!!先輩…っ!!

ごめんなさい…っ!!

僕が足を引つ張ったばかりに  
こんなことい…っ!!

麗子「そうね…反省は大事だわ

なら目を逸らさずに

この光景を脳裏に焼き付けなさい  
もう二度と同じ過ちを犯さないように  
その悔しさを次に活かしなさい」

後輩「せ、先輩…っ!!」



おほっ♡  
ふんっ♡

麗子「私も新人の頃は熱くなつて暴走してよく上司に迷惑をかけたものよ  
だけど生きてさえいれば反省し学び成長することが出来るの  
だから貴方を一人前の捜査官にする為なら私は喜んで体を張る事ができるのよ」

後輩「せんぱ……僕のことをそんなに……!!  
うう……っ！先輩……っ!!」



キモチ♡

後輩「わかりました先輩……っ!!

僕もう目を逸らしませんっ!!

自分のせいで尊敬する先輩が目の前で卑劣な犯罪者に辱められているという現実を

しっかりと受け止めて……っ!!

この悔しさ! 怒り! 無力感を噛みしめて!!

僕は成長してみせますっ!!

二度とこんな事が起きないようにっ!!」

麗子「それでいいわ……一歩近づいたわね

一人前の捜査官に……」



麗子「さあ……貴方も十分楽しんだでしょう」

麗子「これは私からの最後の饞別よ」

犯人「ぬほおっ!?」



麗子「有難く受け取りなさい……っ！」

犯人「イグツッ♥」



犯人「ふーっ♥ふーっ♥ふーっ♥ふーっ♥ふーっ♥

ふへっ♥ふはははっハアハア♥♥

なにが最後の饑別だッ♥

こんな最高級のオナホを手放すわけないだろうがっ♥」

犯人「まあ安心してなよ♥アンタが大人しくしてりゃ

今後も後輩君の命は保証してやるんぞ!」

麗子「あら…なにかお探しかしら?」

アホオオ  
くっくっ

麗子「貴方も人のこと言えないわね

装備品の管理はしっかりなさい

でないとこんな風に盗られちゃうわよ」

ハヤ

犯人「なああああああっ!?!

いつ、いつの間にかっ!?!



麗子「チエツクメイトね……」

後輩「せつ、せんぱい……」

犯人「おみぞれしましたああああっ!!」



ファン

ファン

ファン

こうして再びパイズリレイパーは逮捕された……

ファン

ファン



申し訳ええええええつ



ゴメンじゃありませんでしたあああつ



後輩「おつ、俺！先輩に酷いことを○○○っ！！

ごめんなさいiiiiiiiiっ！！

許してもらえろとは思っていませんっ！！

告訴するなりボコボコにするなり

好きにしてくださいさいiiiiiiiiっ！！」



後輩「もう僕には警察官でいる資格なんて……っ!!」

麗子「馬鹿ね……貴方はいずれ立派な捜査官になる  
この私が言ううんだから間違いないわ」

後輩「せ、先輩……!」

麗子「地面におでこ擦りつけてる暇があったら

一人でも多くの犯罪者をその足で捕まえなさい  
今も何処かで弱き人々が助けを求めているのだから」

後輩「はっ、はいっ!!麗子先輩っ!!」

さあ！性犯罪特別捜査班……！行くわよ……！

はいっ！！

完

おんおんおん

